

3 顧客のために

医療機関の業務を効率化するために、 さまざまなシステムを展開しています

医薬品の自動発注と余剰在庫の自動^{あんぶん}按分ができる「ミザル」、音声入力で電子薬歴を作成できる「ENIFvoice SP+A」と「ENIFvoice Core」、物販を支援するPOSレジ「Core-POS」、医療材料を分割販売する「ENIFme」などをご紹介します。

薬局本部システムの「ミザル」で 薬剤師の業務と薬局経営を効率化しています

薬局本部システム「ミザル」は、調剤薬局チェーンの本部が各店舗の売上や在庫のデータをウェブブラウザ上から一元管理できるクラウド型薬局本部システムです。各店舗のレセプトコンピュータからリアルタイムでデータを集約することができます。また、店舗でも集約されたデータの閲覧が可能です。当社グループの「ENIFvoice Core (エニフボイスコア)」「Core-POS (ポス)」だけでなく、各社のレセプトコンピュータに対応し、運用に関してレセコンの種類を問いません。2013年にリリースされた当時は「ENIF本部」という名称でしたが、2019年に「ミザル」に改称しました。「ミザル」はおおくま座の恒星で、2つの星が引力で引き合って軌道を描く二重星です。「薬局のみなさまの強力なパートナーでありたい」という思いをその名称に込めました。

「ミザル」にはとくに好評を得ている機能が2つあります。

ひとつは「自動発注機能」です。過去の処方データをもとに需要を予測して自動的に医薬品を発注します。予測によってまとまった量を発注するので、結果として配送される回数が減り、薬が届くたびに行っている入荷作業（検品、入庫、棚入れ）の回数を減らせます。導入した店舗の約6割は週1、2回の入荷で済んでいます。入荷時にはロットと使用期限が自動反映されるため、入庫時にレセプトコンピュータに手作業で入力する必要はありません。出庫に関しては、レセコンからの情報が即座に反映されることで発注などの時間が削減されます。その時間を服薬指導や在宅業務などにあてることができ、対物から対人へと業務をシフトできます。

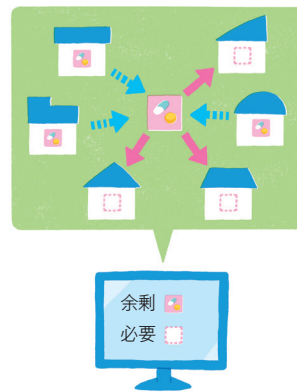
もうひとつ支持されているのが「余剰在庫自動按分機能」です。各店舗の余剰在庫品を自動登録することが可能で、登録された医薬品は過去の使用実績をもとに受け入れ可能な店舗に自動的に振り分けられます。チェーン全体の不要な在庫を減らすことができ、経営の効率化につながります。

「ミザル」は2019年12月末時点で、全国の調剤薬局2,134店舗に導入されています。（株）ファーマみらいからのフィードバックを受けて、自動発注の精度を高めるなど、機能の充実に力を注いでいます。

「自動発注機能」の導入による業務改善



「余剰在庫自動按分機能」の導入による経営改善



「ENIFvoice SP+A」と「ENIFvoice Core」で 薬歴作成の作業効率を改善しています

音声入力によって薬歴と服薬指導の質の向上に寄与しています

薬歴とは、患者さまの体調の経過や服薬指導の内容、服薬による副作用の有無などを記録したもので、この記録が次の適切な服薬指導につながります。薬歴の作成に時間がかかると、服薬指導に費やせる時間が短くなり、そのぶん薬歴に記載する情報も少なくなります。わたしたちはこの悪循環を防ぐために、音声認識による薬歴作成支援システム「ENIFvoice」を2009年6月にリリースしました。マイクに向かって話すと音声が入力されるので、すばや

く正確に薬歴を記録することができます。翌年5月には後継機種「ENIFvoice SP (エスピー)」を、2017年には電子薬歴を一体化した「ENIFvoice SP+A(プラスエー)」をリリースしました。薬剤師の訪問業務に対応するためにも、薬歴や音声認識辞書のデータをクラウド化しています。いつもと違うパソコンや他の店舗で作業するときも、レベルアップした状態の音声認識を使用できます。「ENIFvoice SP+A」を導入したチェーン店のデータによると、1秒間に音声入力した文字数は平均で6.5文字に達します。これはキーボード入力の3倍です。記載される情報の量が増えて、より具体的かつ詳細に書かれるようになりました。「ENIFvoice」シリーズは、全国の調剤薬局と52の薬学系大学(教材として)で、2019年12月末時点で1万1,489台が導入されています。

レセコンと一体化した「ENIFvoice Core」を発売しました

2018年には「ENIFvoice SP+A」を搭載したレセプトコンピュータ「ENIFvoice Core」を発売し、2019年12月末までに368軒に導入されています。電子薬歴とレセコンを音声認識で操作できるので、効率よく作業することができます。さらにクラウド型なので、同じ法人のチェーン店であればどの店舗でも瞬時に薬歴情報を閲覧することができます。患者さまは、出張先や旅行先でも、かかりつけの調剤薬局のときと同じように質の高い服薬指導を受けられます。いまのところ個人情報の管理の問題もあり、ほかの法人や医療機関との薬歴情報の共有は認められていませんが、患者さまの利便性を考えると、徐々に認められていくことが予想されます。情報共有のインフラとして医療業界全体を支援していきます。

「ENIFvoice Core」が普及したときのメリット



POSレジの「Core-POS」で調剤薬局の物販を支援しています

地域医療の充実が求められるなかで、調剤薬局と薬剤師は、「かかりつけ薬剤師・薬局」および「健康サポート薬

局」として機能することを期待されています。「健康サポート薬局」の役割のひとつに、OTC医薬品や健康食品の販売があります。その際、レジをレセプトコンピュータと連動させて調剤の会計も同時にできないと、業務がきわめて煩雑になってしまいます。この課題を解決するのが、レセコン連動型POSシステムの「Core-POS」です。OTC医薬品をスムーズに販売できるように、OTC医薬品の添付文書を印刷する機能も付いています。要指導医薬品と第一類医薬品の販売時には警告メッセージが表示されます。キャッシュドロワー（現金用引き出し）の上にタブレット端末を載せたコンパクト設計なので、設置しやすいのもメリットです。2019年10月の消費増税にともない、「Core-POS」への関心が高まり、2019年12月末時点で379軒の調剤薬局に導入されています。

「ENIFme」と「エニフナース」を通じて、多職種間の連携を手助けしています

「ENIFme」によって医療材料を1個口から購入できます

「かかりつけ薬剤師・薬局」の要件のひとつに、「患者さまのご自宅に向いて医薬品や医療材料を提供すること」がありますが、これまで医療材料(点滴用チューブや創傷被覆材、注射器など)は大きな包装での流通が一般的で、医療機関では保管場所のスペースの問題もあり、多種類の医療材料を常時揃えておくことは困難でした。「ENIFme(エニフミー)」(2012年リリース)に登録すれば、「ENIF」で医療材料のバーコードを読み取るだけで、医療材料を1包装単位の1個口からでも簡単に購入できます。「ENIFme」を導入している施設は2019年12月末時点で1万2,639軒です。

音声入力によって訪問看護師の業務をサポートします

訪問看護師のみなさまが報告書や記録書を作成する負担を少しでも軽減できればとの思いから、モバイル端末で音声入力を使って簡単に訪問看護記録を作成できる「エニフナース」を開発し、2016年4月にリリースしました。「訪問看護記録」というアプリを使うと、いつでも、どこでも、音声入力で簡単に訪問看護記録を作成できます。訪問看護ステーションに戻ってから手書きのメモを見ながらパソコンで入力するのに比べると、大幅な時間の短縮になり、記録の量と質も向上します。静岡県看護協会の訪問看護ステーションに導入されているほか、着実に導入先は増えています。

在宅医療に携わる多職種のみなさまをつないでいます

在宅医の協力のもとに医療材料についての研修会も全国で実施しています。薬剤師だけでなく、医師や訪問看護師、ケアマネージャー、管理栄養士などが参加し、在宅医療に携わる多職種の方たちの交流の場にもなっています。「ENIFme」は、開発当初から多職種連携のプラットフォームをめざしていました。MSは訪問看護ステーションを積極的に訪問し、「エニフナース」を提案しています。MSが各医療拠点の特徴をほかの拠点に伝えれば、拠点同士が連携しやすくなります。これからも多職種の方々をつなげてまいります。